

学校運営協議会 活動報告書（第1学期）

学校名 芦屋市立精道小学校

校長名 木下 新吾

開催日 令和7年5月9日（金）

出席者 運営委員6名（定数10名）校長・教頭 教育委員会指導主事（オブザーバー参加）

1 今回の協議会での主な内容（議題・承認事項・協議事項など）

- ・学校運営協議会の委嘱、校長による会長指名の後、会長の議事により会が進められた。
- ・校長より「学校経営方針」について説明があり、めざす子ども像や重点課題が共有されたのち、承認された。
- ・防災・命の教育に関して、阪神・淡路大震災 30 年メモリアル祈念誌の作成（内容や作成方法、完成時期など）について協議され承認された。
- ・「共生」を軸においた特別支援教育の在り方について、多様な人々と共に生きていく社会をつくっていくために学校ではどのような取り組みができるか協議され承認された。

2 委員から出された主な意見や感想

- ・自律や共生といったテーマが学校経営方針に入っているのはよい。
- ・学校の時程変更について、保護者からお困りごとなど含めた相談があるか。
- ・震災の祈念誌を作成して、地域や後世に向けてこれまでの取り組みや人々の思いを共有していくことは非常に大切なこと。
- ・ただし、祈念誌作成にあたって教員への負担が過度にならないようにしていく必要がある。
- ・子どもたち自身も震災について調べ（インタビューなど）、当事者として関わられるような祈念誌づくりになればよいのではないか。
- ・共生については、授業のユニバーサルデザイン化を進めている自治体もある。子どもの「安心」があるような学校に。
- ・多様な背景のお子様がいらっしゃる。「学校」という場所だけではなく、様々な関係機関との連携が必要になってくる。
- ・互いの「個性」がわかっていれば、ちょうどよい関わり方がお互いにできる。相互理解が重要ではないか。

3 協議内容を受けての学校の今後の取組

- ・祈念誌の作成にあたっては、できるだけ子どもも当事者としてかかわれるようにしていく。
- ・子どもと共に創り上げていくような祈念誌になるように方法を模索する。
- ・「共に」過ごす中で互いのことを理解していく場面があるので、大切にしていきたい。
- ・共生を考えていく上で、現状の学校だけの人員では不十分なところは確かにある。
- ・学校行事（運動会等）や日常の学校生活など、学校運営について、PTA や Smile ねっとの協力を仰ぎ、保護者及び地域の住民等に持続可能な形での支援を積極的に呼びかけていく。

4 当日の会議の様子

